

皆さんから 寄せられた オリンピックの思い出

当時の生で見た感動や聖火リレー、ボランティアと選手との交流といった、大会にまつわるさまざまなエピソードが皆さんから寄せられました。フィギュアスケート銅メダリストのジャネット・リンさんからのメッセージとともに紹介します。

「虹と雪のバラード」の歌声に乗り、大倉山から札幌の街並みに大空高くジャンプ台から飛び出す笠谷選手の映像が、今もまた目に焼き付いています。

当時学生だった私は、報道機関の通訳をしていました。このような国際的なイベントがあったからこそ、札幌が今の国際都市になったのだと感じています。



札幌市公文書館所蔵

ジャネット・リン選手が印象的でした。彼女は演技中に涙もちをついてしまったのですが、最後まで笑顔で滑り切り、何とんでもその笑顔がとってもかわいらしかったです。



私はスキージャンプが心に深く残り、表彰台の3人の人形をパンで作ったり、表彰式の様子を絵に描いたりしました。新聞の写真を見ながら、一生懸命描いたことを覚えています。

50周年を記念して寄せられた ジャネット・リンさんからのメッセージ（一部抜粋）

日本の人々は、私を心から歓迎してくださいました。何千通もの手紙、何百もの心のもった贈り物を送ってくださいました。私に心を開いてくださった日本の皆さんに、永遠に感謝します。50年もの間、日本の方々は私に敬意と友情、そして数えきれないほどの機会を与えてくださいました。私は日本の皆さんとのこの素晴らしい関係を心の中に大切にしています。

1980年代前半に真駒内アイスアリーナで演技したことは、私のフィギュアスケート人生の最後を飾るものとしてふさわしいものになっています。私を歓迎し、忘れずにいてくださることに感謝しています。



◀メッセージの全文は
ホームページで公開中



bushnell PHOTOGRAPHY

皆さんからのご意見を募集しています

現在、2030年大会の招致に関する意向調査の実施とともに、ご意見を募集しています。

はがき、ファクス、Eメールで招致推進部調整課（〒060-0002中央区北2西1 ORE札幌ビル内、ファクス211-3048、Eメールolypara@city.sapporo.jp）まで



オリンピックから50年 を振り返る

幌の街が国際都市として大きく飛躍する
このページでは、50周年を記念して実施

詳細 招致推進部調整課 ☎211-3042

中高生が未来への 願いを込めて制作 黒板アート作品

未来への願いや思いと1972年札幌オリンピックの感動を組み合わせた独自のテーマで作品を募集し、49点の応募がありました。3/1(火)~31(木)の期間、駅前通地下歩行空間北2条交差点広場の大型ディスプレイで全作品を映像配信しています。

高校の部 最優秀賞 平岸高等学校 作品タイトル 変移



平岸高等学校 デザインアートコース 1年生の皆さん

制作に当たり、オリンピックミュージアムに行きました。オリンピックはたくさんの人々が関わってできるものだと考え、選手だけではなく観客も描いています。過去を土台にして新しい価値が加わり、より良いものに変移して欲しいという願いを込めました。多くの方に作品を見ていただき、過去から現在、そして未来のオリンピック・パラリンピックに興味を持つきっかけとなれば幸いです。

中学の部 最優秀賞 北白石中学校 作品タイトル 1972大会の感動と札幌遺産

